

# MR（麻疹・風疹混合）ワクチン の予防接種を受けられる方へ

## 1. 麻疹について

麻疹は「はしか」とも呼ばれ、麻疹ウイルスの感染によって起こる感染症です。空気感染・飛沫感染・接触感染で感染します。約 10 日間の潜伏期の後に鼻汁、咳、結膜充血、目やに等の症状が出始め、38℃前後の発熱が認められます。また麻疹特有の白く小さな斑点（コプリック斑）も頬の内側の口腔粘膜にあらわれます。数日後に一時、熱が下がりますが、24 時間以内に再び高熱（39～40℃）となり、鮮紅色の発疹が全身に広がっていきます。主な症状は 7～10 日で快復していきませんが、発疹の後は、茶褐色の色素沈着となり、しばらく残ります。

麻疹にかかると約 30%に合併症がみられ、主な合併症は、気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎などです。脳炎は約 1000 人に 1 人の割合でみられ、麻痺・けいれん等の中枢神経系の後遺症を残すことがあります。さらに麻疹にかかった後、数年～10 数年後に発症する亜急性硬化性全脳炎（SSPE）という死に至る合併症が、数万人に 1 人以上の割合で報告されています。

## 2. 風疹について

風疹は患者さんの飛沫（ひまつ）を介して感染するウイルス感染症で、発疹、発熱、リンパ節の腫れを特徴とします。潜伏期は 2～3 週間です。

大人が風疹にかかった場合は、その症状は乳幼児に比べて一般的に重く、高熱が持続したり、関節痛の頻度が高いといわれています。

妊娠初期の女性が風疹にかかると、お腹の赤ちゃんに風疹ウイルスが感染して、先天性風疹症候群（心臓病、白内障、難聴など心臓・目・耳など色々な組み合わせで障害を持つ病気）の赤ちゃんが生まれる場合があります。風疹にかかったことがない、または風疹ワクチンを接種したことがない場合、感染予防の為に妊婦だけではなく、一緒に生活する家族は、予防接種を受けておくことが大切です。

## 3. 他のワクチンとの接種間隔

厚生労働省はこれまで、異なる種類のワクチンを接種する場合、一定の日数を空ける接種間隔を規定していました。この度、この規定が見直され、注射生ワクチン同士を接種する場合以外は、接種間隔の制限を撤廃することになりました。令和 2 年 10 月 1 日以降適応されます。

一方、同一ワクチンの接種間隔は従来どおりになりますのでご注意ください。

## 4. 次の方は接種を受けないで下さい

- ① 妊娠している方および妊娠している可能性のある方（接種前 1 ヶ月間は要避妊）は接種することができません。ワクチン接種後は少なくとも 2 ヶ月間の避妊が必要です。
- ② ワクチンを受ける 3 ヶ月以内に輸血やガンマグロブリン製剤の投与を受けたことがある方、また 6 ヶ月以内にガンマグロブリン製剤の大量療法（200mg/kg 以上）を受けたことがある方は、免疫が十分にできませんので、接種を延期する必要があります。接種について主治医とご相談下さい。

- ③ 明らかに発熱している方
- ④ 重い急性疾患にかかっている方
- ⑤ 明らかに免疫機能に異常のある疾患を有する方、免疫抑制をきたす治療を受けている方
- ⑥ MR ワクチンに含まれる成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある方

＜アナフィラキシー反応とは＞

急激に起こる「じんましん、口腔や咽頭のアレルギー性腫脹、喘鳴、呼吸障害、血圧低下」等のショック症状

- ⑦ MR ワクチンを受ける 27 日以内に他の生ワクチン（注射剤）を接種した方は、免疫が十分にできませんので、接種を延期する必要があります。あらかじめ健康センターへご連絡ください
- ⑧ その他、予防接種を行うことが不適当な状態にある方  
(予診の結果、接種が不適当と考えられる場合は中止することがあります。)

## 5. 次の方は接種前医師にご相談下さい

- ① 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある方
- ② 予防接種で接種後 2 日以内に発熱があった方及び全身性発疹などのアレルギーを疑う症状のあった方
- ③ 過去にけいれんの既往のある方
- ④ 過去に免疫不全の診断がなされている方及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- ⑤ MR ワクチンに含まれる成分に対してアレルギーを起こす恐れのある方

## 6. MR ワクチン（麻疹・風疹混合ワクチン）の接種スケジュール

1 回 0.5ml を皮下に注射します。

## 7. 接種後の副反応

接種後 30 分以内に「ショック、アナフィラキシー（じんましん、口腔や咽頭のアレルギー性腫脹、喘鳴、呼吸障害、血圧低下等）」(0.1%未満)、接種後、数日から 3 週頃に、紫斑（皮膚や粘膜にできる紫色の斑点）・鼻出血・口腔粘膜の出血等の「血小板減少性紫斑病」(0.1%未満)、数日から 2 週間程度で、発熱・頭痛・けいれん・運動障害・意識障害等の「急性散在性脳脊髄炎（ADEM）」(頻度不明)があらわれることがあります。また脳炎・脳症・けいれん(0.1%未満)を起こすことがあります。これら重大な副反応が出た際は、医師にご相談下さい。

その他の副反応は以下の通りです。

- ・接種部位に発赤（5%以上）、腫脹・硬結・疼痛（0.1～0.5%未満）
- ・接種直後から数日中に発疹、じんましん、掻痒、発熱、紅斑（赤い斑点）等の過敏症  
(0.1～5%未満)
- ・5～14 日後に、だるさ（0.1%未満）、不機嫌（0.1～0.5%未満）、発熱（7～12 日を中心として 20%程度に 37.5℃以上、10%以下に 38.5℃以上）、発疹（麻疹様発疹）
- ・頭痛・咽頭紅斑・口腔咽頭痛・鼻閉・嘔吐・食欲減退・腹痛・眼脂（目やに）・首その他リンパ節腫脹（0.1～0.5%未満）
- ・咳・鼻汁・下痢（5%以上）
- ・関節痛（0.1%未満）

## 7. 接種後の注意

- ① 接種当日は過激な運動を避け、接種部位を清潔に保ちます。  
(入浴は可能ですが、注射部位を強くこすらないようにしましょう。)
- ② 接種後(直後～14日間)は健康状態に留意して下さい。局所の異常反応や異常な症状(高熱、けいれん等)を呈した場合は下記までご連絡下さい。
- ③ 妊娠可能な女性については、接種後2ヶ月間は避妊して下さい。

社会医療法人財団 慈泉会 相澤健康センター